



感 謝

上富良野 熊谷琢磨

私は、平成23年3月11日に起きた東日本大震災に災害派遣のため、準指検定会場から出動した自衛隊員であります。

当時、仕事の合間に活用し、上富良野スキー連盟の方々にご指導をいただきながら、日々準指導員への道を歩んでおりました。理論検定を受検、シーズンに入ると指導者としての資質や知識、スキー技術の習得・理解等、沢山のご指導をいただきながら、実技検定前日まで懸命に努力して参りました。しかし、あの大惨事が起きてしまったのです。

検定前日には北会場〈比布スキー場〉に入り、最後の調整をしておりましたが、職場からの出動派遣命令により、呼集がかかり翌日に控えた実技検定を受検することなく、被災地へ派遣されることになりました。これまで練習を積み重ねてきた成果を発揮できないまま終了となってしまい、大変に無念な思いではありました。

勿論、今回の災害と比べる対象ではありませんが、それ以上に被災地では厳しい状況が続いておりました。

しかし、派遣先に嬉しい知らせが届いたのです。それは、北海道スキー連盟が今回の災害の特別措置として、災害派遣された自衛官等に救済措置として、理論検定合格者に対し次年度のみ、検定料を免除してくれるという知らせが届いたのです。このお話を現地で聞いた時には、とてもありがたく、また、派遣任務中の大きな活力にもなりました。北海道スキー連盟の関係者の皆さん、大変ありがとうございました。

そして災害派遣任務を終え、昨年の冬からまた新たな練習をスタートしました。

あれから約一年、さらに技術を磨き、二度目

にして実技検定を受検することができました。

検定種目も一部変更となり、多々勉強することになりましたが、何よりこの検定の舞台に立てたことが一番嬉しく、本当に感謝の念で一杯です。さて、肝心な結果ですが、全種目で合格点を頂くことが出来ました。



著者の見事な急斜面の滑り

種目別では、特に谷回りにおける制動要素・推進要素を重点的に練習しました。何度も何度も身体が覚えるまで、繰り返し練習を積み理論を理解することで、いづれは「指導者」だと自分に言い聞かせながら練習に励みました。

「指導」とは、そう簡単に出来ることではないと自覺しながら、この準指検定に臨んでいました。これからは一指導者として、地域におけるスキーの普及・発展に少しでも貢献し、スキー人口の裾野を広げたいと考えています。

与えられた資格に自信と誇りを持ち、また、しっかりと役割を果たしていきたいと思います。

準指受検に際し、お世話になった皆さん、関係者の方々、沢山のご指導、ご協力本当にありがとうございます。

この紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。